

令和8年3月二戸市議会定例会

教育施政方針要旨

令和8年2月27日

二戸市教育委員会

令和8年3月市議会定例会の開会にあたり、令和8年度の教育施政方針について、その基本的な考え方と主要施策を申し上げます。

令和7年度は、これまでの取組が結実し、着実に次の一步に繋がる印象的な出来事の多い年でありました。

学校教育分野では、福岡中学校PTAが、キャリア教育優良教育委員会学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰を受賞いたしました。保護者の「子どもたちに自分の人生をしっかりと生きてほしい」との願いのもと、PTAが主体となって継続して開催してきたキャリア講演会の取組が高く評価されたものであります。

地域とともにある学校づくりの範となる素晴らしい活動であり、様々な職種・分野で活躍する地域の方々を講師に、人生の岐路でどのような選択をしてきたのかに耳を傾け、誇りを持って歩みを進めてきた姿に接することは、子どもたちが自己の生き方・あり方を見つめ、自らの将来像を描く大きな原動力となるものです。

学校保健分野では、全国健康づくり推進学校表彰の最優秀校として、二戸西小学校が表彰されました。地域にある医師会・歯科医師会・薬剤師会の学校三師会の指導のもと、家庭と学校が連携して健康教育に取り組み続けた成果であり、たいへん誇らしいことであります。

子どもたちの活躍も、めざましいものがありました。

福岡中学校に学ぶ生徒がチームを編成し、挑んだ全日本中学生カーリング選手権全国大会では、初出場ながら第4位の成績を収め、福岡小学校の児童が、県内の仲間とともに出場した全日本小学生カーリング選手権大会においては準優勝の活躍を見せてくれました。

金田一中学校では、一戸の中学校と合同チームを編成し、東日本学校吹奏楽大会において銅賞を獲得しました。地域の枠を超えて交流を深め、ともに高みを目指して取り組む姿に、児童生徒の減少が進む時代にあって、努力と工夫で未来を切り開いていく力強さを示してくれました。

また、石切所小学校の児童が、J A共済全国小・中学校書道コンクール条幅の部において、文部科学大臣賞を受賞しました。約93万点の応募作品の中から選出されたものであります。

社会教育の分野では、乳幼児から高齢者までを対象に、読み聞かせ等を実践してきた図書館ボランティア花ぐるま、人形劇や紙芝居を通して心のふれあいの場を創出してきたイーハトーブ夢くらぶにおいて、その実績が認められ、それぞれ、子供の読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰、岩手県読書推進運動功績者表彰の栄に浴されました。

豊かな心を育み、図書に親しむ喜びを伝えてきた両団体の活動は、

教育委員会が掲げてきた図書に親しむまちづくりの推進力の一翼を担ってきたものであり、今後一層の活躍を願うものであります。

昨年春には、「二戸市少年少女発明クラブ」が開設されました。科学技術に対する興味関心を深め、試行錯誤を繰り返しながらものづくりに打ち込む体験を通し、豊かな発想をもって「自ら課題を解決する力」を育んでいくものと期待しております。

芸術文化の分野では、高田啓介さんが東光展で大作部門最高賞の文部科学大臣賞を受賞され、更には岩手県人で洋画部門では初めて日展の審査員の大役を務められました。自己研鑽に励む一方、市内での絵画教室等の指導にあたられるなど、市の芸術振興に大きな貢献をいただいております。

文化財の分野では、「史跡九戸城跡石垣シンポジウム」を開催し、一昨年、石沢館から発見された石垣の歴史的な価値を衆知に付すことができました。石垣の積み方から、全国の築城技術の進化を探る内容であり、二戸市から城郭研究の進展に資する発信ができたと捉えております。

令和8年度を迎え、4月には、教育委員会として要望を続けてまいりました小中高等部一貫の特別支援学校「二戸北星支援学校」が開校いたします。

ここに至るまでの関係各位のご尽力に深く感謝申し上げるとともに、二戸地域の特別支援教育の新たな拠点として、大いに期待を寄せるものであります。

教育委員会では、二戸市教育大綱の教育理念である「学びの広がるまちづくり、未来を拓く人づくり」を目指し、教育委員会、学校、家庭、地域の連携のもと施策を進めてまいりました。

計画期間を一年延長した二戸市教育振興基本計画の最終年度を迎え、一層の教育振興に努めるとともに、新たな「二戸市教育振興基本計画」の策定にも取り組んでまいります。

それでは、令和8年度教育行政の施策ごとに、主要の事業を申し上げます。

はじめに、「学校教育の充実」について申し上げます。

変化が激しい社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、多様な他者とともに生きる力を育むことが求められております。

そのため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、子どもたちの健やかな成長を支援してまいります。

確かな学力の育成につきましては、新しい時代に求められる資質・

能力を育む教育を推進するため、教員の授業力向上を主眼に、「東京学芸大学連携事業」、「教育研究所事業」、「スクールタイアップ事業」の三本柱を中心とした取組の充実を図ってまいりました。

令和8年度も、先進的な教育理論や実践に学ぶ機会を継続し、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするため、「主体的・対話的で深い学び」の実装に向けた教員の授業改善に資する事業の企画・運営、各校における学力向上に向けた取組の支援に努めてまいります。

児童生徒の不登校につきましては、全国や県と同様に当市の不登校者も増加傾向にあり、支援は引き続き大きな課題であると認識しております。

その要因は個々によって一様ではなく、複合的であることを踏まえ、支援会議の開催や関係機関との連携、1人1台端末を活用した取組等を通して心身の変化の把握に努めるとともに、教育支援センター等における学びの場の提供を通じて、安心して学べる環境づくりを進めてまいります。

国際理解教育につきましては、これまで、田中舘愛橘博士の足跡を辿り、次代を担う人材の育成を目的にイギリス・グラスゴーへの派遣研修を行ってきたところです。

令和8年度は、ホームステイを研修活動の主体に据え、派遣先としてオーストラリアを選定いたしました。異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションを図る経験を通して、多様な価値観を理解・尊重

する国際感覚を養い、グローバルな視野で未来を切り拓く力を備えた人材を育成してまいります。

GIGAスクール事業の推進につきましては、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの実現や情報活用能力の向上のため、1人1台端末の更新を行います。また、全国学力・学習状況調査がオンラインで実施されるなど、今後さらに活用の広がりが見込まれることから、ネットワーク環境の強化を図ってまいります。

学校給食につきましては、物価高騰への対応や保護者の負担軽減に配慮しつつ、引き続き、質を維持した安全・安心な給食の提供に努めてまいります。

学校部活動の地域連携につきましては、少子化による部員数の減少も課題となる中で、活動機会を確保するため、拠点校方式の実施に向けた体制整備を続けてきたところです。令和8年度は、拠点となる福岡中学校の部活動指導員を拡充し、本格実施に向けて取り組みを行ってまいります。

小中学校の適正配置につきましては、小中学校通学区域調整委員会において、将来を担う子どもたちにとって良好な環境を維持、確保する観点から審議を重ね、学校の適正規模と通学区域のあり方について答申をいただいております。

今後は、答申を踏まえ、子どもたちが多様な人間関係の中で学び、様々な価値観や考え方に触れながら、未来の社会を生き抜く力を育てるよう、望ましい教育環境の維持、整備に向けた「小・中学校適正配置計画」の策定を進めてまいります。

次に、「社会教育の充実」について申し上げます。

子どもたちが自らの体験を通して自己の将来像を描き、これからの社会を生き抜く力を育てることは、生涯にわたって学び続ける意欲に繋がるものであります。

教育委員会では、「いつでも、どこでも、だれでも」生涯にわたって学習活動が行える環境づくりを推進するため、図書活動の推進、各種講座の開催等、学習機会の提供に努めてまいりました。

キャリア教育につきましては、中学生を対象とした槻蔭舎きぼう塾では、地域に誇りを持って活動している先輩方との交流や、地域の企業を知る「中学生版しごとメッセ」の開催等、地域の方々から学ぶ体験を通じ、社会貢献の意義や必要性を理解し、自己実現に向かう子どもたちの育成に努めております。

小学生を対象としたふるさと探訪塾では、ガイドの案内により天台寺や滴生舎、九戸城を自分の目で見ること、地域の宝の価値を体感し理解を深めております。

ジュニア槻蔭舎きぼう塾では、優れた芸術や科学、歴史文化に触れ

るため、本市出身者も働く日本航空を訪問し、田中館愛橘博士が研究した航空学、飛行機や空港での仕事について学んだところであります。

参加した児童からは、「シビックセンターに通ううち、田中館愛橘先生に興味を持ち、先生が研究した航空工学分野について学ぶことができると思い参加した。飛行機を自分の目でみて、話を聞いて、もっと学びたいと思った」などの感想が寄せられ、学びを深める機会となったことに成果を感じております。

令和8年度におきましても、子どもたちが、郷土の宝や地域の方々との交流を通して、郷土への愛着や誇りを育むとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる生きる力を養うため、郷土に学ぶキャリア教育を推進してまいります。

市民の生涯学習活動の支援といたしましては、高齢者が健康について学ぶ「高齢者のための講演会」ほか、保護者向け講座、相続登記に関する講座、古典文学講座など、対象や関心に沿う講座を開催してまいりました。

今後につきましても、引き続き、幅広い世代に応じた講座等の充実を図ってまいります。

図書活動の推進につきましては、読書習慣の土台づくりを目指した産前産後の親を対象とした読み聞かせ、そして発達段階に合わせた乳児健診会場での読み聞かせと絵本のプレゼントは、絵本を読む楽しさを体験するきっかけづくりとなっております。読書は、語彙力・読解

力・思考力を養い感性を豊かにします。小中学生への図書贈呈は、切れ目のない読書活動の支援として行っております。継続して読書の喜びを実感できる環境づくりを目指してまいります。

次に、「芸術・文化・スポーツの振興」について申し上げます。

優れた芸術や、伝統芸能に接することは、子どもたちにおいて、豊かな感性と創造性を育む機会であり、幅広い世代において、より豊かで充実した生活や生きがいの糧となるものであります。そのため、多くの市民が質の高い芸術や、伝統芸能などに触れる機会を創出し、芸術文化に親しむ取組を進めてまいりました。

今後につきましても、引き続き、市民文化会館等と連携し、多様な芸術文化活動に触れる機会や、市民参加型のフェスティバルの開催など事業を進めてまいります。

芸術文化団体等の活動についても、財政面での支援や、活動発表の場の提供により、地域に根差した芸術文化・伝統芸能等の継承につなげるよう努めてまいります。

スポーツについては、生涯にわたり心身ともに健康で、文化的な生活を営むために欠かすことのできないものであります。

生涯スポーツと健康づくりの推進のため、二戸市スポーツ協会や体力づくり振興会等と連携し、健康教室、各種大会の開催など、スポーツ

がより身近なものになるよう機会の創出に努めてまいります。

また、本年8月には、大平球場をメイン会場に、軟式少年野球の全国大会が開催されます。全国津々浦々から集う精鋭チームのプレーを間近で見るとは、子どもたちの視野を広げ、競技力の向上に繋がるもの捉えております。

史跡九戸城跡の保護と活用につきましては、おおむね第2期整備工事が完了し、往事さながらに、二ノ丸大手虎口を抜けて初めて本丸の隅櫓と高石垣の威容を目の当たりにする「見せる城」の姿が立ち現れました。

今後は、史跡九戸城跡の新たな保存活用計画の策定を進めるとともに、市民が歴史を感じる場としての誇りと愛着を大切にしつつ、市民主体による花火大会や音楽活動の舞台など、歴史公園として多様な活用を図ってまいります。

また、史跡九戸城跡の歴史・文化を保全するための公有化や、文化財としての価値を維持するための発掘調査、史料調査の研究も併せて進め、積極的に九戸城跡の価値や魅力を情報発信してまいります。

文化財の保護と活用につきましては、二戸の宝である文化財を適切に次世代へ継承していくために、文化財講演会の開催や記録集の作成、郷土芸能映像のデジタル化を進め、市民の皆様が文化財の価値を理解し、愛着を深められるよう、地域や関係者と協働して、保存と活用の両立を目指してまいります。

以上、令和8年度の主要施策について申し上げます。

今日、変化の激しい時代にあって、教育課題も複雑化しておりますが、教育委員会といたしましては、引き続き学校、家庭、地域並びに関係機関と連携し、更なる二戸市の教育振興に努めてまいります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、教育施政方針といたします。